

先週の礼拝メッセージ(2021年12月5日) ベン牧師

「大きな喜び」 ルカによる福音書 2:8-12

今日の箇所は、イエスキリストの誕生を、天使が羊飼いに知らせるという場面です。ここで注目したいのは、天使が羊飼いたちに「大きな喜びを告げる」と言ったことです。

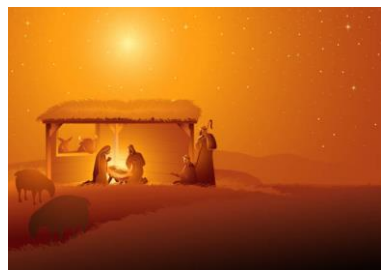
一般的に「あなたに喜びはありますか」と聞かれると戸惑うのではないのでしょうか？ なぜなら、喜びは、何かうれしいことがあったり、楽しいことがあっての結果で生まれてくるものであると捉えられているからです。しかしそのような喜びは、うれしいこと楽しいことが過ぎ去れば消えてしまうものです。

ここで天使が語っている「喜び」は、そういった次元のものではありません。天使が羊飼いたちに「大きな喜び」を伝えにきたのには意味があるのです。

当時の羊飼いといえば、野獣や盗賊などの危険と隣り合わせであり、重労働で、ましてや野宿をして羊の番をするということは、雇われた羊飼いであって、貧しく、休みもなかったでしょう。こういった状況の彼らは、「喜び」とはかけ離れた状況にいたのです。神様はそんな彼らに、真っ先に救い主誕生という「大きな喜び」のニュースを伝えたのです。

羊飼いたちは、このニュースを聞いて、誕生した救い主を探し当て、神を崇め賛美したとあります。(20節) そして彼らは、自分たちの場所へと帰って行きました。

帰った先の羊飼いたちを取り巻く環境は何一つ変わっていません。しかし彼らの心には、「大きな喜び」が与えられたのです。



結局のところ、私たちが喜べるかどうかは、よいことが起こったかどうかで終わるものではないのです。つまり、環境によって左右される喜びは、本当の喜びではないということです。

どんな状況にあってもなくなる喜びを、私たちに与えるために、神の子イエス様が赤子となってこの世に来てくださったのです。イエス様こそ私たちの大きな喜びなのです。そして、このイエス様を内にお迎えしたクリスチャン一人一人には、決してなくなる大きな喜びが与えられているのです。



ベツレヘムで救い主がお生まれになったというニュースは、羊飼いたちによって広まったでしょう。しかし、飼い葉桶に寝かされている乳飲み子イエス様を礼拝しに行ったのは、羊飼いたちだけでした。せっかくの大きな喜びが目の前にあるのに、行こうとしない人たちもいたのです。天使の言葉を聞いて、イエス様を探し当てた羊飼いたちには、変わることはない喜びが与えられました。行かなかった人たちは、ベツレヘムという同じ町に救い主がお生まれになったのに、彼らの生活、心は何も変わりませんでした。

私たちはどうでしょう。今の世は混沌として明日どうなっているかは誰にもわかりません。そういう中で喜べと言われても難しいでしょう。しかし、私のうちにすでに消えることのない喜び(イエス様)があるなら話は別です。

この季節、世界中でクリスマスがお祝いされています。ツリーやプレゼントやケーキなど、みんなの心がウキウキします。しかし、元をただせば、クリスマスは、私たちのうちに大きな喜びを与えるために、神が人となってきてくださったから、お祝いするのです。言い換えれば、大きな喜びがあるからこそ、クリスマスをお祝いするのです。

私たちの人生の中に、揺るがない喜びを実現するためにイエス様はきてくださり、十字架にかかり、私たちの心を新しくすると約束してくださっているのです。

神様は、あなたの人生を祝福と喜びで満たそうと願っておられます。大きな喜びとして来てくださったイエス様を、心開いてお迎えしましょう。